

菊陽町における平成24年九州北部豪雨災害の災害伝承

熊本大学工学部社会環境工学科 学生会員 ○岩本 尚
熊本大学大学院先端科学研究部 正会員 竹内 裕希子

1. はじめに

災害への備えの1つに「過去の災害を知る」がある。災害やその被害に関して口伝・アーカイブ・報告書・映像・石碑などがあるがこれらを総して災害伝承という大規模な災害が発生した後は、様々な災害伝承が試みられるが、小規模災害や被害が小さかった地域ではこれらの取り組みはされにくいという課題がある¹⁾。

一方で、過去の災害規模が小さいあるいは被害が発生しなかった地域でも土地利用の変化や気候変動などの環境変化によって災害リスクが高まる懸念されている。このことから、過去の災害を伝承し、地域の変化を認識しながら自助力、共助力を高め、地域防災力を向上していくことが求められる。

地域防災とは、地域の成り立ちを理解し、地域全体で災害に備えることである。地域によって人口、年齢層、建物の種類、地形、気候など地域を構成する条件は異なっている。そのため、例えば、洪水災害に対しても、対策の仕方は地域によって異なってくる。

地域で発生した災害の痕跡や経験を地域住民の生活に反映・活用することで住民が地域の災害リスクに気付き、災害を自分事として捉え、災害に対して具体的な対策が出来るようになると考えられており、結果として、平常時・災害時の地域防災力が向上するといえる。(図-1)

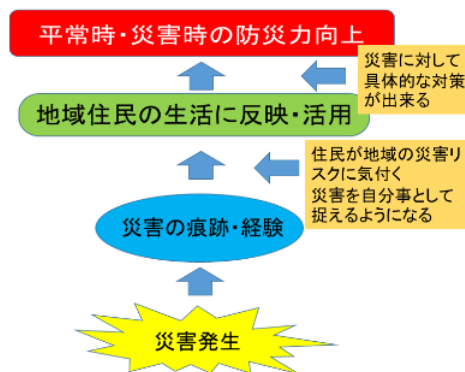


図-1 災害伝承による地域防災力向上の仕組み

2. 研究の目的

本研究は、平成24年に熊本県で発生した九州北部豪雨災害で被害が小規模であった菊陽町における災害6年後の伝承状況と災害への備えについて検証することを目的とする。

白川流域の菊陽町住民に対し、平成24年九州北部豪雨災害、昭和28年白川豪雨災害の伝承状況、住民のリスク認知、災害への備えについてアンケート調査を行い、その結果から考察を行った。

3. 菊陽町概要

菊陽町は、熊本市の北東側に位置しており、面積37.46km²、人口42,000人である。町の中央部を白川が東西に横切るように流れており、ハザードマップにおいて浸水被害が想定されている。(図-2)

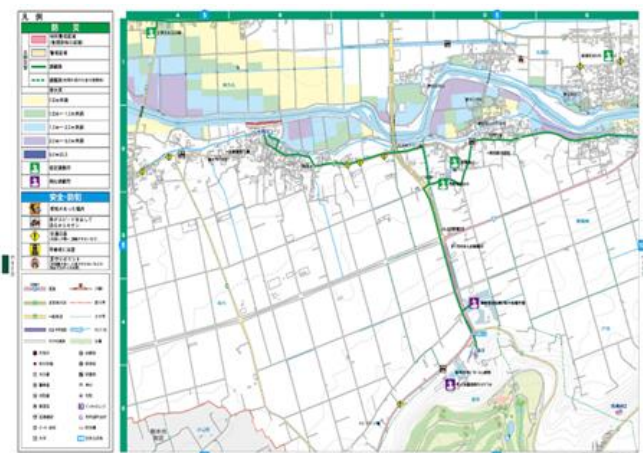


図-2 菊陽町のハザードマップ

平成24年7月に発生した九州北部豪雨災害では、熊本県全体で浸水面積2,353(ha)、死者23人、行方不明者2人、重傷者3人、軽傷者8人、家屋被害3,653戸の被害が発生した。その中でも阿蘇市は浸水面積2000(ha)、死者21人行方不明者1人、家屋被害2,239戸であり、被害のほとんどを占めている。一方、菊陽町は浸水面積100(ha)、家屋被害80(ha)であり、被害は阿蘇市に比べると大きくはない²⁾。報告書を確認してみると、被害の大きかった阿蘇市では広報誌などを用いて災害の

顛末や教訓を伝えているのに対し、被害の少なかった菊陽町では報告書が発行されていない。

表-1 平成24年九州北部豪雨被害状況

	浸水面積(ha)	人的被害	家屋被害(戸)	報告書
熊本県	2353	死者23人 行方不明者2人 重傷者3人 軽傷者8人	3653	報告書あり
熊本市	110	軽傷者3人	813	報告書あり
阿蘇市	2000	死者21人 行方不明者1人	2239	報告書あり
菊陽町	100		80	報告書なし

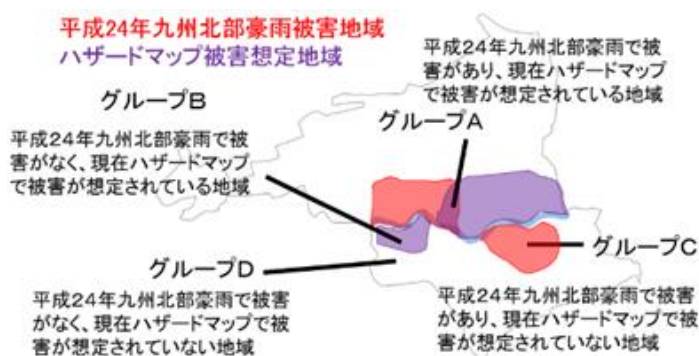


図-3 菊陽町におけるアンケート区分け図

4. アンケート調査

菊陽町における平成24年九州北部豪雨災害の伝承状況、住民のリスク認知、災害への備えを明らかにすることを目的として平成30年12月～平成31年1月にアンケートを行った。アンケート項目は「家族に平成24年九州北部豪雨災害を経験した方がいるか」、「家族に昭和28年白川豪雨災害を経験した方がいるか」

「関わっている地域組織」、「居住年数」、「居住形態」などの回答者の属性や住まいに関する11項目、「洪水災害が発生リスク」、「洪水災害への備え」などの災害のリスク認知、備えに関する7項目、「平成24年九州北部豪雨災害の経験や伝承」、「昭和28年白川豪雨災害の経験や伝承」などの災害伝承に関する3項目の合計21項目から構成した。

アンケート調査は菊陽町の住民を対象とし、住んでいる地域により図3に示す、ABCDの4つのグループに区分けして行った。グループAは平成24年九州北部豪雨災害でも被害が出て、現在でもハザードマップで被害が想定されている地域、グループBは平成24年九州北部豪雨災害では、被害がなかったが、現在ハザードマップで被害が想定されている地域、グループCは平成24年九州北部豪雨災害で被害が出たが、現在ハザードマップで被害が想定されていない地域、グループDは平成24年九州北部豪雨災害でも被害がなく、現在もハザードマップで被害が想定されていない地域とした³⁾⁴⁾⁵⁾。

アンケート対象者はグループA132戸、グループB159戸、グループC19戸、グループD321戸、計631戸である。アンケート調査票は、ポスティングにより配布し、郵送回収した。

4. 終わりに

今後、アンケート調査の集計・考察・検討を行い、菊陽町における災害伝承の活用方法について検討して予定である。

参考文献

- 1) 地域で受け継がれている災害伝承の特性と災害教訓誌の開発の実践 石原 凌河
[online]tateno/120911-daisankai(tateno)/17-jouhouateikyodaisankai-tateno.pdf
- 2) 平成24年九州北部豪雨について国土交通省のデータを利用
[online]http://www.qsr.mlit.go.jp/nkawa/kensyo/02-
- 3) 菊陽町ハザードマップ
- 4) 平成24年度九州北部豪雨災害被害状況図：菊陽町役場提供
- 5) ゼンリン住宅地図 2018 10：熊本県菊池郡菊陽町